



NPO PTPL “ともいき” 便り No.48

■春分（しゅんぶん）

3月21日から4月4日までの節気

（2014年3月21日発行）

★お彼岸の思い出

いつの間にか日が長くなりましたね。昼と夜の長さが同じになる春分です。私たちの祖父母時代は、^{ちゅうにち}中日とも呼んでいました。ぼくの祖母も「お中日」などといい、幼いぼくはなんの事かわからないまま、「おはぎの日」として大好きな日のひとつになっていました。

多磨墓地に家族で墓参するようになると、墓参後は、多磨墓地前駅から雑木林のなかの一本道を、武蔵境駅に向って散策。林の中は、いろいろな発見があり冒険好きの兄、ぼく、妹にとってはなによりの祝日となりました。しばらく歩いて、ローカル鉄道が走る土手下の草原でひと休みして昼食。小型のSLが引く、これも小型の客車を仰ぎ見るのも楽しみのひとつでした。

母と姉がつくったおむすびを食べ、「よもぎ」と「つくし」を摘むのが習慣に。よもぎは、母が後で草だんごなどにつくってくれます。つくしは、たぶん父の酒の肴になったのでしょうか。ほんものの旬の味覚。「ごちそうさん」です。

ハウスで、自然を騙すようにして作る最近の野菜とは、根本がちがうはずです。陽光、紫外線、風、雨、霧、雪、そして自然の温度などなど。自然そのものの環境の中でたくましく育つ野菜や果物とは、内容に相当の違いがあるのではないのでしょうか。だからかといって、日本の農業からハウス栽培を無くすなどということは、もう考えられないでしょう。文明の進歩とは、を考えてしまいます。

勝田理事長ともよく話すのですが、いまではもう「ほんものの旬」は味わいにくくなってしまったようです。

さて、ぼくたちのお彼岸の思い出に戻ります。昼食後、さらに雑木林を歩き、野川（のがわ）の丸木橋をわたるなどの冒険を楽しみながら駅にむかったのです。ピクニック墓参というべきか。思いついたのは子どもを健康に育てようとしていた母でした。

春分は、より一般的な認識としてはお彼岸でしょう。太陽が真西に沈む。そこで西方浄土という思想のもとで、この日、お寺は彼岸会（ひがんえ）を催して先祖供養を行います。また、大きな墓地は墓参りの市民でにぎわいます。「祖先と共に生き、子孫と共に生きて」いく「ともいき」日本民族の、懐かしい習慣なのでしょう。

しかし、屋台の食べ物店が並んだりもするので、お祭り気分です。お祭りが大好きな日本らしい風物誌でしょうか。

長かった今年の冬を脱ぐように梅が咲き、桜の梢はうすい桜色に変わってきました。先日、東急東横線沿線の大倉山梅園を訪ねたら、一本の三叉（みつまた）の木に花が満開でした。花を見たのは初めてです。3センチほどの品のよい白い花びらを開き、雄しべの先端は黄色い花粉がこんもり盛られていました。

多くの訪問客も、珍しい花にカメラを向けていました。三叉は、枝分かれが必ず三本になる面白い木で、和紙の原料として用いられる貴重な木です。

太平洋戦争が始まった1941年の春、東京の日比谷公園で植樹祭が行われました。小学生だった兄とぼくは、何げなく遊びにいった日比谷公園の野外音楽堂前の広場で、その植樹祭に遭遇。当時、日本は中国に侵攻し、戦争は長期化していました。そんな中で大人たちは植樹を勧め、木材資源を増やそうとしていたようです。当時の日本帝国の国策だったのでしょう。

子どものぼくたちは大人の演説はわかりませんでした。参加者には若い苗木が配られました。兄とぼくは、樺と三叉の苗木をもらって意気揚々と帰宅。芝公園四号地にあった住まいの庭に父に教わっていっしょに植えました。以来、苗木への水やりは兄とぼくの役目になりました。とくに、ふしぎな三叉の姿に魅力を感じ親密な思いで見守りました。

しかし、その辺り一帯は1945年5月25日にアメリカ空軍の大空襲を受け、木造建築の日本家屋は焼夷弾によってことごとく焼失。増上寺も、沢山の末寺も、

徳川家15代の墓地も焼けてしまいました。ぼくたちが育った家の跡は、いま港区立御成門小学校になっています。戦前は愛宕小学校でした。

春。私たち人間も自然の一部なので、明るい日ざしを浴びると心がひとりで弾むようです。人が自然と共に生きているのを実感できるのも、この節気の特徴なのかも知れませんね。

「ともいき暦」で春分をお楽しみください。あなたの春が、いっそう豊かな春になることでしょう。

文：朝倉 勇 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ ともいき・ともうみ雑感彼是

私は、「ほんとうの日本はどういう国なのだろう」という関心を基に、10年あまり同志と共に考察・研究してきました。すると、実に多くの発見があり驚きました。日本は「ふしぎ」に満ちた、魅力のある国でした。まさに「ワンダーランド日本」なのです。

そこで、ここ数カ月考えてまとめたものが別紙 (B-4サイズ 1枚ペーパー) にてご紹介する“「ともいき」「ともうみ」「ジャパネスク」。日本からアジアへ、そして世界へ。”という概念マップです。

ぜひ、ご覧いただき、ご意見をお寄せください。

期待しています。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局日より

- この「2014年春分号」をもって、「ともいき便り」を皆さまにお届けして早、2年が経ちました。皆さまお楽しみいただいていますか、また、なにか日常生活のヒントになっていますでしょうか？

二十四節気にもつわる季節感のある身近な話題や現代ならではのなにか割り切れない世情などをピックアップしながら、NPO PTPL が提唱する「ともいきの社会づくり」の一助になればと願いながら今後も続けていきますので、何卒、皆さまのご支援・ご協力をお願いします。

是非とも、ご意見・ご感想をお寄せいただくとともに、お知り合いの方々にもご案内いただければ幸いです。

- 昨年より、「ともいき便り」では『日本の本質、それは日本的なるもの「ジャパネスク」』を折に触れて皆さまにお伝えしていますが、この度、テスト的ではありますが、ホームページを立ち上げました。これまで13年展開してきた、8つのサイトのまとめとして展開していきます。ぜひ、ご覧ください。

<http://japanesque.pw/>

- Facebook「ともいきぐらし (<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>)」並びに「おらが富士計画 <https://www.facebook.com/oragafuji>」をご覧ください。そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

■ お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階
電話：03-6205-7503
FAX：03-6205-7504
Email：info@plantatree.gr.jp